

まんさく

第298号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電

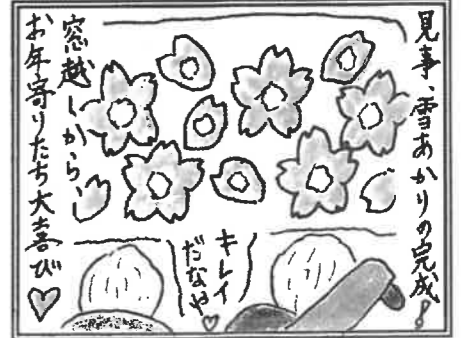


家族会・高橋祐一さんご夫妻に、光寿苑雪あかりを素敵に作って頂きました♪ [関連記事:4頁、8頁]

298号もくじ

- ☆2~3頁★ *上半期検証と下半期目標 (総括課、ひなたぼっこ)
- ☆4頁★ *「共生の場」へようこそ♪ *極小雪の中『雪あかり』実施! *4年ぶりに来苑! 『謝湯雪中神輿』
- ☆5頁★ *想... 災害を捉える
- ☆6頁★ *地域密着型事業紹介 *寄附・寄贈・訪問等紹介
- ☆7頁★ *元気です! 家族会♪ *今生より往く
- ☆8頁★ *「光寿苑の日々」(4コマ漫画) *「自然法爾」(お寺さんのお話) *「おわりに」

光寿会の日々 298号



気づいたら仏さま

《仏教の言葉》

海嵐は二日続いた。三次郎が遺体となって浜に打ち上げられたのは、五日後のことだった。善信は、三次郎の苦屋を訪ねた。嫁と幼い二人の子がいた。

第97回 丸田善明 自然法爾 (じねんほうに)

「善信さま。夫は、京都から来た善信さまと友だちになったぞ。って喜んでいましたよ。それなのに、こんな早く死んでしまおう。って。と泣き崩れた。

「うん。この間、海辺で、お釈迦さまは仏未と喜んでいたな。あの時、三次郎は、お浄土に生まれる自分だ」ということを知ったんだ。

極めて深い悩みを抱えた時、難も自分の悩みなんて理解してくれないうんだ。と疑って、ついでに、ずべて目に映る世界が黒い闇のようになる。誰とも話したくなかったり、気晴しなんて全く無意味に感じたり。傾聴スキルだけ身につけたような専門家に話してしまおうと、大変だったね、吐き出して楽になってね。等の言葉も軽く感じてしまい、打ち明けなければ良かった。とも考える。その間は、自分の中の問題である事は本当は知っているからこそ、中々その開けられぬ壁を越えられず、助言的確でなくとも、悩み中味を全て理解してくれなくて、悩み中味悩みの深さを黙って拝聴してくれぬ人が一人居れば。その一人に成れる。

イラスト: 1000

この記事をしたためている今日(3月4日)は何と大雪! 雪あかりの際には雪をかき集めて雪造りに取り組んでいた光景が幻のようである。とにもかくにも、家族会有志の方の尽力で見事な雪あかりが完成! その有志の姿を親る母の眼差しもまた尊い!

おわりに

第113回



家族会地域役員
佐々木忠雄氏

113回目も、家族会役員の佐々木忠雄さんより3回目のご執筆いただきました(^_^) それでは、どうぞ〜♪

元気です！家族会♪

サトフル〜③ 酒

父はお酒が好きでした。その影響でしようか、私もお酒が好きです。なので、父も私もお酒を飲み過ぎて時々失敗をしてきました。母は、何で嫌な所が似るのかな。嫌な所は似なければ良いのに。とよく溢こぼしていました。親子なので仕方ないです(笑)。ある時、酔って馬にちよっかいを出した父は、人差し指を馬に咬まれて指先が取れてしまったそうです。父は指先を取り戻し、傷口に合わせくっつけました。指は付きましたが、変形して動きませんでした。化膿

はしなめたように、本当に傷負けない人だから母は呆れていたようです。私もそれを受け継いだのか、殆んど傷負けをした事はなく、母もそこが似たのは良かったとよく言っていました。のびのびと。当時は娯楽も少なかったりで、お酒は良い気がした。父は酒を飲んでよく家に帰って帰ると酔いつぶれて寝てしまったそうです。そのため父が連れてきた友人や知人の相手を、お酒の飲めない母がしていたそうです。母にしたら、えらく迷惑な事だったでしょう。シラフで酔っぱらいの相手は苦痛だった事でしょう。しかし、事件が起きます。

続



高橋ツナさん【89歳】

あんパンを食べた時の「うめえ〜♪」と笑顔で話されたツナさんのお顔が忘れられません。お子様方のツナさんを想う気持ちもステキでした。短い間でしたが、ツナさんの楽しかった日々、忘れません。ありがとうございました。

《担当・佐々木 瞭》

穏やかで優しい空気感と笑顔は永遠に…

『今生より往く』

令和5年度法人キーワードは『活かす』~変更箇所:「丸ゴシック体」~

【在宅】「①総括課」 ☆細川 浩☆

法人キーワード	令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ	コロナ禍3年の生活経験を普段の日常生活に活かす。	
理上半期理想像	目標① ★在宅高齢者への地域支援・貢献	目標② ★家族・地域への施設開放
具体的な取組(いつ、何を、どのように)	①配食サービスの継続(配食サービス事業の啓発) ②ショートステイ事業受入れ再拡充	①家族会活動の再開と継続 ②地域連携 ⇒地域防災の再構築と連携

令和5年度上半期検証【テーマ】	*コロナ5類移行後、地域は普段の日常生活に戻ってきている。コロナ禍生活経験からの対策・対応を継続のもと、お年寄り・職員の普段の日常生活や業務が営まれている。
令和5年度上半期検証【各目標】	<p>目標① *配食サービス新規利用の受入れ・提供対応が行なわれている。 *コロナ等の感染対策の上での事業継続の中、受入れ再拡充に向けた話し合いがもたれる。</p> <p>目標② *地域の感染状況等を見ながら、行事などは家族・地域団体等への開放の再開がされました。 *上半期における防災訓練実施が見送りとなりました。</p>

令和5年度下半期のイメージ	コロナ禍3年の生活経験を普段の日常生活に活かす。	
理下半期理想像	目標① ★在宅高齢者への地域支援・貢献	目標② ★家族・地域への施設開放
具体的な取組(いつ、何を、どのように)	①配食サービスの継続(配食サービス事業の啓発) ②ショートステイ事業受入れ再拡充	①家族会活動の再開と継続 ②地域連携 ⇒地域防災の再構築と連携 ③防災部分別訓練…12月 総合訓練…3月

上半期を振り返って、下半期の目標再設定です

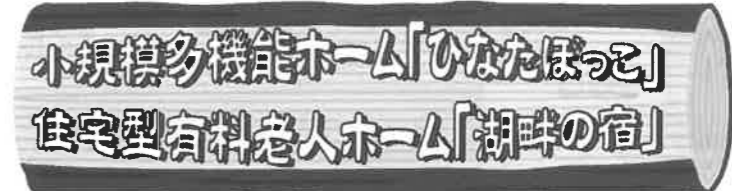
【在宅】「②地域密着型部門(ひなたぼっこ・湖畔の宿)」☆刈田光太☆

法人キーワード	令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
テーマ	地域住人との交流を深め、得た情報を活かす。	
令和5年度上半期のイメージ像	目標 ①	目標 ②
	★地域に出向いて情報収集していく	★サロン・お茶会の内容の充実 (令和4年度から継続)
具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①地域行事へ積極的に参加していく。 →地域総会・防災訓練等 ②地域住人から得た情報に基づき必要な支援、対応を検討していく。 ③近隣住人への明るい挨拶を心掛けていく。	①感染症対策をとったうえで ・バス旅行〔お茶会〕 ・季節を感じていただける作品作り〔お茶会〕 ・身体機能低下を防ぐ為、西和賀ご当地体操やゴルフを取り入れ体を動かしていく〔サロン〕 ・コロナ禍で隣近所との交流が減っている為、お茶会やサロンを通して交流を深めていただく〔お茶会・サロン〕 【令和4年度から継続】

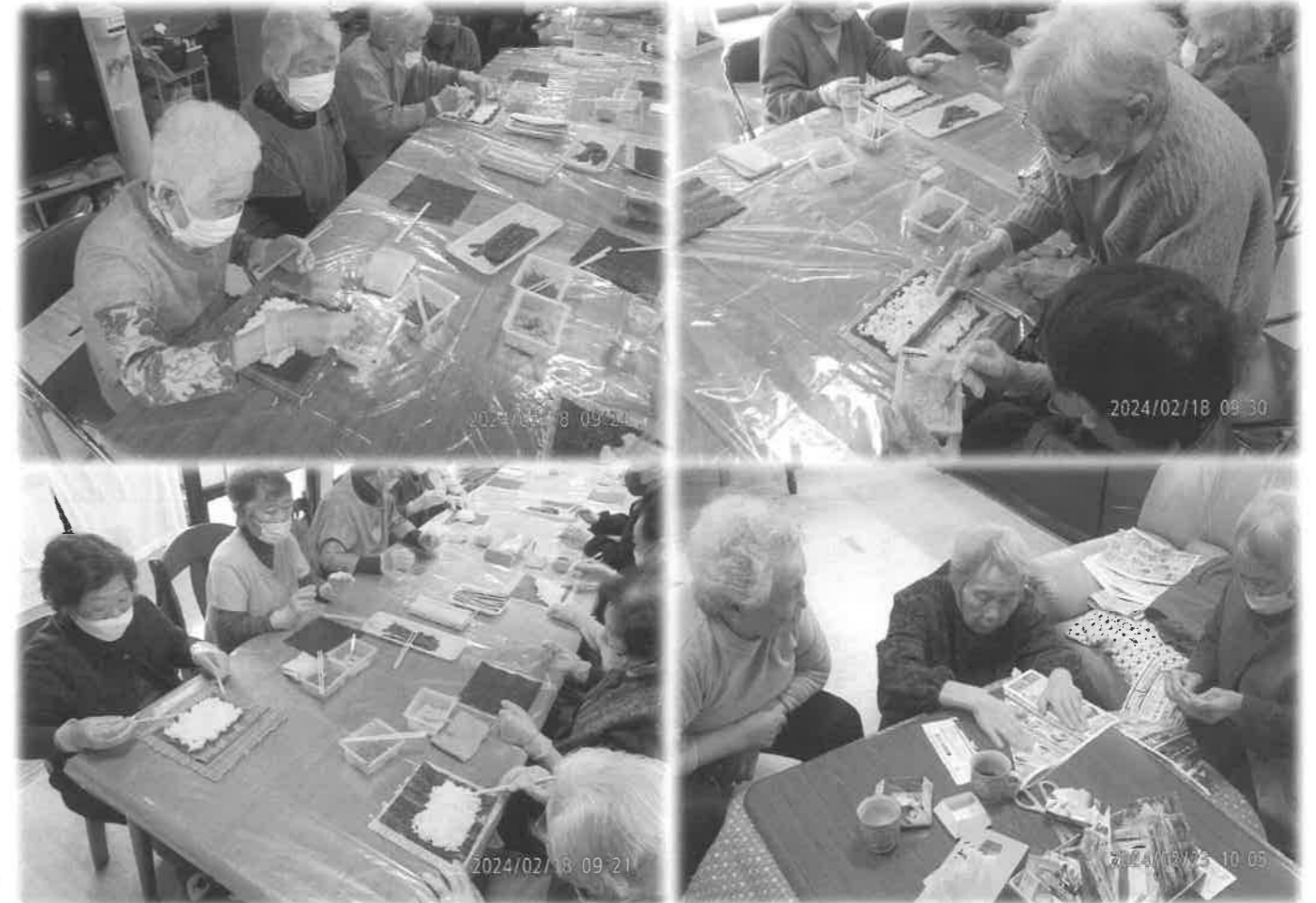
令和5年度上半期検証【テーマ】	※利用者様から近所で利用したいという方の情報をいただく事ができ、利用に繋げる事が出来た。
令和5年度上半期検証【各目標】	目標① ※近隣の住人への挨拶は出来ている。 ※コロナにより中止になっていた地域行事へ参加する事が出来た。(地域総会・防災訓練・盆踊り) 目標② ※久しぶりのバス旅行で、参加されたメンバーの方々から「おもせがった」と言っていた事が出来た。 ※参加される方の地域が広がり、メンバーが増えた。 →普段交流が少ないが、お茶会を通して交流する事が出来た。

テーマ	地域住人との交流を深め、得た情報を活かす。	
令和5年度下半期のイメージ像	目標 ①	目標 ②
	★地域に出向いて情報収集していく	★サロン・お茶会の内容の充実
具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①地域行事へ積極的に参加していく。 →地域総会・防災訓練等 ②地域住人から得た情報に基づき必要な支援、対応を検討していく。 ③近隣住人への明るい挨拶を心掛けていく。	①感染症対策をとったうえで ・バス旅行〔お茶会〕 ・季節を感じていただける作品作り〔お茶会〕 ・身体機能低下を防ぐ為、西和賀ご当地体操やゴルフを取り入れ体を動かしていく〔サロン〕 ・コロナ禍で隣近所との交流が減っている為、お茶会やサロンを通して交流を深めていただく〔お茶会・サロン〕

今月の登録者の方々
15名様です♪



小雪だったのに3月にドカ雪! 「ひなたぼっこの日常」



【上2枚+左下】お茶会「太巻き作り」

【右下】ひなたぼっこの余暇時間

おかげさまでした

寄贈

- ★ 高橋 あや子 様 [野々宿]
- ★ 大島 商店 様 [湯本]
- ☆ 梨子下 深幸 様 [上野々]
- ☆ 東 孝子 様 [湯本]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下前]

面会・外出

【2月1日~29日】

【対面面会】 延べ90名
(対象入居者23名)

寄附

★=光寿苑 ☆=ひなたぼっこ

- ★ 小専商店 様 [湯本]
- ★ 匿名 様 [西和賀町]

訪問・奉仕

2月9日~10日『雪あかり作り』

- ★ 高橋祐一 様、高橋緑 様 [湯田]

2月11日『謝雪雪中神輿』

- ★ 御神輿関係者の皆様 …110名 [県内外]

2月18日『お茶会参加』

- ☆ お茶会メンバーの皆様 … 16名

光寿会へのご支援

想... 災害を捉える 宮城県から発信します⑥

『であい』... 白木澤琴氏



宮城県の僧侶・白木澤琴さんより6回目のご執筆です。今回は、亡きご尊父様(前ご住職)から授かった精神について筆をとっていただきました。

人生にとって、人・言葉との出遇いは、これほどまでに生きる力となるのかと、私は祖父から教えてもらった。父、白木澤建生は折に触れ、金子大榮師との出遇いを語ってくれた。父の手記を抜粋する形でご紹介することをお許しいただきたい。

生涯にたった一度の出遇いというものがあるとすれば、それは昭和49年9月10日、金子大榮先生との出遇いであろう。宗門の学校である大谷大学に入学したての私は、一先輩の勧めによって、単身、金子大榮先生宅を訪問した。生涯を仏道に捧げた老大家にお会いしてみたい。ただそれだけの気持ちだった。事前に電話で訪問のお許しを得、午後3時丁度に恐る恐る老大家の門を潜った。

「何か問題が出たか？」と、穏やかに語られた。(中略)

私は好奇心と期待をもって老大家の学生時代のことをお尋ねした。懐かしげに語りだした。

「よう勉強したもんじゃ。たゞ、ものを学ぶには、ハウ、フアット、ホワイを基にして学べ。」

孫にでも諭すかの様に話された。(中略)私の体は汗がっしりだった。老大家の若かりし時代をお聞きすること以外、取り分け質問の用意もなく、会話に窮してしまっただけである。(中略)沈黙を破り、断崖から飛が降りるような気持ちで、

「お念仏とは何ですか？」

と私の物心ついた時から疑問を問うた。急に金子先生は厳しく真剣な顔をされ、腕を組まれた。

「何と言ったら分かっていますか？」と呟かると、また重い沈黙が訪れた。後に知った言葉だが、先生のそれは正に、「維摩の黙大千を震う」の観があった。この一黙に圧倒され、そしてまた二十にも満たぬ一介の学生に、全人生を尽して求道されたものの一切を今、一句の言葉に凝縮し与えんとしておられる99歳の老師の姿に、私は心打たれた。自然に涙が流れた。涙と汗で、私の顔はくしゃくしゃになっってしまった。

暫く沈黙が続いた後、魂の奥底から吐き出すように、金子先生は語られた。

「念仏とは姿勢だ。これさえ知ってれば転んだって起きられる。もういいじやろう。」

きっぱり言い切られた。99歳の老師の表情には、疲労の色が濃く現れていた。

(中略)僅か30分の出来事か、私には計り知れない確信を与えて下さるとは、その時は思ってもみなかった。

以来、30年の歳月が流れ、私も88歳となった。その間には、自分の力では解決することのできない問題にぶちあたり、苦しみ、歎き、もがくこともあった。昨年(平成15年)には、震度6強という震災にも遭遇した。さまざま問題に出遇うにつけ、金子大榮先生より給わったお言葉が心に浮かんでくるのである。

「念仏とは姿勢だ。これさえ知ってれば転んだって起きられる。」

南無阿弥陀仏

(「玉蓮寺だより」第四号)

平成16年6月抜粋)

玉蓮寺 白木澤琴

『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しい入居者をご紹介します】

柿澤征子さん

*西和賀町 *昭和のお生まれ



極小雪の中「町の雪あかり」開催!

【2月10日…夜間】



町の雪あかり鑑賞へ、光寿苑のお年寄りたちも観に行ってきました。皆さん大喜びで興奮気味でしたね♪中には、ご家族が地区で作り上げた雪あかりを観に行った方も♪ 感激の再会でした♡

4年ぶりに来苑! 【2月11日…日中】

「謝湯雪中神輿」

湯本温泉の冬の風物詩「謝湯雪中神輿」が4年ぶり湯本地区に帰って参りました。全国から集った総勢110名程の神輿愛好家の皆様が苑庭でワッショイ♪窓越してはありましたが、お年寄りも大喜びの時♪

